

# 環境活動レポート2013年度版

2013.5.1～2014.04.30

ver.1.1

2014年6月18日

紙から始めるコミュニケーション

**株式会社長門屋商店**

## 会社概要

- ◆社名 株式会社長門屋商店
- ◆代表者 代表取締役 横溝純一
- ◆創業 1947年
- ◆設立 1953年
- ◆資本金 1,000万円
- ◆社員数 17名(就業役員を含む)
- ◆業務内容 紙製品の製造卸・小売業・賃貸業

### ◆事業所

- 本社 東京都港区麻布十番1-5-25
- 東陽センター 東京都江東区東陽1-3-3
- 文具小売部 東京都港区麻布十番1-5-25 1F

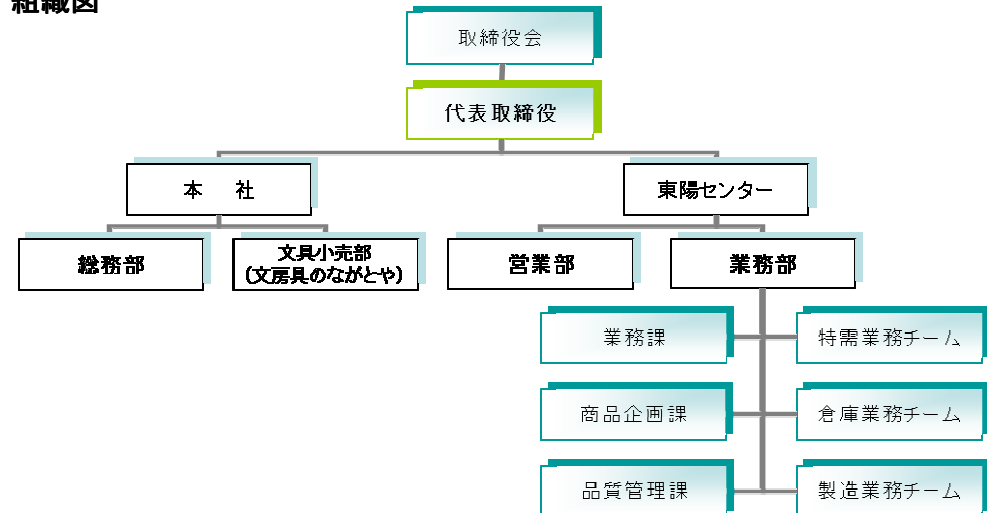
- ◆環境管理責任者 東陽センター長 中島 淳

### ◆事業規模

	2011年度	2012年度	2013年度
売上高(万円)	55,000	58,000	58,600

決算期末(6月)売上高

## 組織図



## 主力商品



プリンタ用紙



祝儀・和文具

## 環境方針

---

### 基本理念

当社は、紙加工品の商社として「環境にやさしい商品づくり」をメインテーマに、環境に配慮した製品の開発・拡販を積極的に推進し、環境配慮企業として循環型社会形成に寄与する企業活動を展開して参ります。また、日常推進事項として以下に掲げる項目を継続的な環境配慮活動として取り組んで参ります。

### 活動方針

#### 環境にやさしい商品づくり

- ・環境に配慮した新商品を積極的に開発して参ります。
- ・商品の包装や資材などを見直し環境負荷軽減に努めます。
- ・商品の売り上げの一部を森林保護活動の為に役立てます。
- ・効率的な在庫管理をし、入在庫などに関わる物流エネルギーの削減に努めます。

#### 省エネルギー

- ・資源やエネルギーの消費による環境負荷を認識し、限りある資源の保全に努めます。

#### 廃棄物削減と汚染防止

- ・資源固有の特性を有効に活用し、廃棄物の抑制に取り組み環境汚染の防止に努めます。

#### 関連法規制順守

- ・企業活動に関係する環境関連法規・条例・規制等を順守します。

#### グリーン購入

- ・日常業務において使用する社用品にはグリーン製品を積極的に使用します。

#### 環境活動に関する継続的持続

- ・環境負荷に関する内容をデータ管理し、目標を設定し継続的に持続達成に努めます。

#### 環境活動の公表

- ・環境活動の計画及び実施状況を「環境活動レポート」としてとりまとめ公表致します。

2006年11月01日制定

2010年05月01日改定 (ver2.5)

株式会社 長門屋商店

代表取締役 横溝純一

## 環境目標および達成状況一覧

実施事項	2012年度実績	2013年度実績	2013年度環境目標	目標達成状況
①-A 電力消費量	56,858kwh	<u>53,029kwh</u> 前年対比 -6.7%	<u>54,000kwh</u> (対2012年度-5%)	目標対比 -1.8% ○
①-B ガソリン給油量	9,054リットル	<u>8,992リットル</u> 前年対比 -0.7%	<u>9,003リットル</u> (対2012年度-0.5%)	目標対比 -0.1% ○
①排出CO2削減	43,091 kg	<u>44,885 kg</u> 前年対比 +4.2%	<u>41,565 kg</u> (対2012年度-3.5%)	目標対比 +8.0% ×
② 水使用量	207m3	<u>205m3</u> 前年対比 -1.0%	<u>204m3</u> (対2012年度-1.4%)	目標対比 +0.5% △
③ 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ (熱回収/埋立)	1003.0kg	<u>950.7kg</u> 前年対比 -5.2%	<u>900.0kg</u> (対2012年度-10.2%)	目標対比 +5.6% △
④ 環境対応商品売上高	25,591万円	<u>27,081万円</u> 前年対比 +5.8%	<u>26,566万円</u> (対2012年度3.8%)	目標対比 +1.9% ○

○は設定目標達成 △は設定目標に及ばずも前年実績より良化 ×は目標・前年実績ともクリアできず

①-A 電力消費量の削減

本社ビル	2011年度	2012年度	2013年度
購入電力量(1)	34,187kwh	35,114kwh	33,968kwh
太陽光発電分からの社内消費量(2)		1661kwh	318kwh
<b>実質電力消費量(1)+(2)</b>	34,187kwh	36,775kwh	<b>34,286kwh</b>
前年比		107.57%	<b>93.23%</b>

東陽センター	2011年度	2012年度	2013年度
購入電力量(1)	10,901kwh	12,555kwh	11,763kwh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	6,732kwh	7,528kwh	6,980kwh
<b>実質電力消費量(1)+(2)</b>	17,633kwh	20,083kwh	<b>18,743kwh</b>
前年比		113.89%	<b>93.33%</b>

全社合計	2011年度	2012年度	2013年度
購入電力量(1)	45,088kwh	47,669kwh	45,731kwh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	6732kwh	9189kwh	7298kwh
<b>実質電力消費量(1)+(2)</b>	51,820kwh	56,858kwh	<b>53,029kwh</b>
前年比		109.72%	<b>93.27%</b>



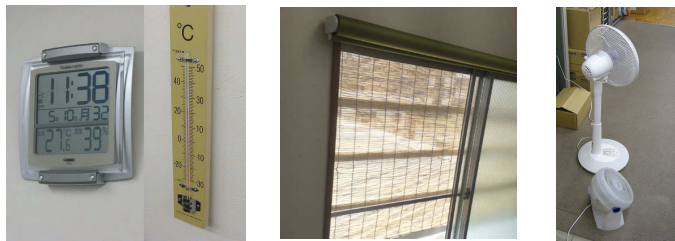
前年対比 **-6.7%**

太陽光発電は従量電灯に接続しており、社内消費と相殺し、余剰分は売電しています。

①-A 電力消費量の削減



↑ LED電球およびLED蛍光灯



↑ 温度管理へのさまざまな工夫



←OAタップで  
待機電流  
OFF  
点灯場所→  
の制限



本社 ソーラー設備 9.8kw



東陽センター ソーラー設備 10kw

■新規取組

- ◆2013年10月に文具小売部と東陽センターの蛍光灯を100本LED化致しました。
- ◆使用量とは関係ないが、一部契約アンペアの見直しをして基本料を下げました。
- ◆夏季にすだれを事務所窓とエアコンの室外機に設置しました。
- ◆ミニデスクライトを使用

■継続取組

- 温度計を使用して室温管理
- 個別の消灯
- OAタップによる待機電流OFF
- エアコンと扇風機の併用等

■評価・次年度へ

本社ビル・東陽センターともに40w型(Hf32w)蛍光管100本をLED管に換装しました。設置月からは従量電灯の使用量が概ね2割ほど減少しています。また逆に低圧電力の消費は増えています。真夏の酷暑と真冬の冷気でエアコン使用率は上昇、加えて機器の老朽化も多少あるかもしれませんが、2014年度はLEDの通年利用の恩恵もあると思っております、小さな工夫も忘れず続けてまいります。

①-B ガソリン給油量の削減



↑ダッシュボードに表示

	2011年度	2012年度	2013年度
給油量	10,592L	9,054L	8,992L
前年比		85.48%	99.32%

前年対比 **-0.7%**

■新規取組

車両の入れ替えが2台あり、1台はアイドリングストップ対応の最新の軽自動車、もう一台はホンダの最新型ハイブリッド車になりました。

■取組

- 車内に「低燃費運転の心がけ」を貼り意識向上  
(①アクセルワーク50%以下②アイドリングストップ③エアコンは控え目④タイヤの空気圧チェック)
- 工場や仕入先などからの直送を増やし積載減

■評価・次年度へ

社用車を利用せず、工場から直接得意先様などに直送し、積載削減、廃棄物削減、Co2削減に努めている。

実際車両入替による恩恵は大きいですが、各自ドライバーの低燃費運転に対する意識もどんどん上がってきている。来季も引き続き取組を継続していきたい。

①Co2排出量削減



CO2排出係数	2011年度	2012年度	2013年度
購入電力 (環境省HP/東京電力)	0.375	0.463	0.525
ガソリン (EA21ガイドライン)	2.32166	2.32166	2.32166

全社合計		2011年度	2012年度	2013年度
本社ビル 購入電力	排出CO2	12,820kg	16,258kg	<b>17,833kg</b>
	購入量	34,187kwh	35,114kwh	33,968kwh
東陽センター 購入電力	排出CO2	4,088kg	5,813kg	<b>6,176kg</b>
	購入量	10,901kwh	12,555kwh	11,763kwh
全社ガソリン 給油量	排出CO2	24,591kg	21,020kg	<b>20,876kg</b>
	購入量	10,592L	9,054L	8992L
<b>排出CO2合計</b>		41,499kg	43,091kg	<b>44,885kg</b>
<b>前年比</b>			103.84%	<b>104.16%</b>

オフセット計算	2013年度
本社ビル 総発電量	11,103kwh
東陽センター 総発電量	12,507kwh
<b>発電量合計</b>	<b>23,610kwh</b>

購入電力での排出量

⇒ **12,395kg 相当**

購入分より差引 ↓

**太陽光発電によるオフセット後の排出量 32,490kg**

電気・ガソリンともに購入量は減りましたが、東日本大震災後の火力発電依存により電力会社の排出係数が大幅に上昇しました。それが原因で弊社の排出Co2量は4%ほどの増加になります。

なお、昨年のオフセット後の排出量は 32,314kg でした。



## ② 水使用量削減



本社ビル	2011年度	2012年度	2013年度
上下水道	39m3	37m3	<b>41m3</b>
前年比		94.87%	<b>110.81%</b>

東陽センター	2011年度	2012年度	2013年度
上下水道	193m3	170m3	<b>164m3</b>
前年比		88.08%	<b>96.47%</b>

全社合計	2011年度	2012年度	2013年度
上下水道	232m3	207m3	<b>205m3</b>
前年比		89.22%	<b>99.03%</b>

### ■設備導入

◆流水音発生器を東陽センターのトイレに設置しました。

### ■取組

◆雨水を貯水して清掃や洗車や植木の水やりに使用しています。

### ■評価・次年度へ

東陽センターは節水トイレ効果が持続し減少しましたが、本社ビルは夏季だけ増加しており、地元で開催している「納涼まつり」の模擬店にて水を使用したのが増加したものと考えます。引き続き取組を持続してまいります。

**前年対比 -1.0%**

### ③ 廃棄物の排出量削減



↑ 合い紙の活用



↑ ダンボール再利用



↑ 計量用のスケール



↑ 別途回収のペットボトルキャップ

#### 可燃ごみ・不燃ごみ (熱回収/埋立)

熱回収/埋立	2011年度	2012年度	2013年度
本社ビル			111.8kg
東陽センター	486.0kg	1003.0kg	838.9kg
合計	486.0kg	1003.0kg	950.7kg
前年比			94.79%

#### ■新規取組

- ★本社: 排出物の把握(可燃・不燃・ダンボール・古紙)
- ★東陽センター: 処理業者の変更によるダンボールと古紙の別途回収(有価扱い)

#### ■継続取組

- 合い紙の社内ドキュメントへ活用
- ダンボールの再利用
- 古紙の分類回収
- ペーパーレスの促進
- ペットボトルキャップの収集

#### ■評価・次年度へ

本社ビルは今期よりデジタルスケールを使用しての排出量を把握ができました。また東陽センターでは10月から古紙を別の業者に回収をお願いし、計量してもらえるようになりました。2014年度からは廃棄物を「熱回収/埋立」と「再生」の2種類の分類にて把握に努め、2015年度には新たな削減目標を設定したいと思います。

#### 参考 プラ・古紙・ダンボール (再生)

再生	2011年度	2012年度	2013年度
本社ビル			1680.0kg
東陽センター			1482.3kg
合計			3162.3kg
前年比			把握

**前年対比 -5.2%**

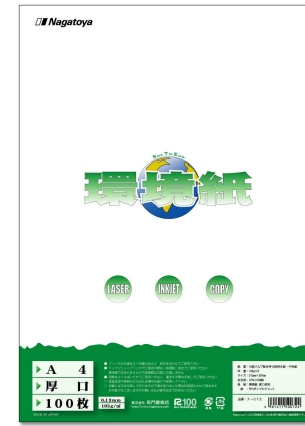
**④ 環境対応商品の売上高アップ** ※自社ブランド製品の卸販売高



売上の一部を(公財)オイスカへ寄付している「カラーペーパー」シリーズ

	2011年度	2012年度	2013年度
環境対応商品	24,828万円	25,591万円	<b>27,081万円</b>
前年比		103.07%	<b>105.82%</b>

当社基準による自社ブランドでの売上高です。



グリーン購入法適合用紙「環境紙」

**■対象商品**

- 売上の一部を環境保全団体に寄付している。
- 原料に廃材や再生材を使用している。
- 非木材原料を使用している。

**■評価・次年度へ**

売上全体の伸び相応に伸びましたが新規の対象商品はほとんど増えてはおりません。  
 まだまだ余地はあるかと思えます。  
 商品企画課には環境面を今一度検討して頂き、新商品と既存品の両方から対象商品の増加をお願いしたいと思います。

**前年対比 +5.8%**

## 環境活動・啓発活動



### オイスカ「子供の森」計画支援

「子供の森」計画は子どもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうという学校単位の新しい森づくり運動です。弊社製品の売上の一部を公益財団法人オイスカの進める「子供の森」計画に寄付しております。



### WWF「しらほサンゴ村」支援

WWFジャパンは、沖縄県石垣島白保にサンゴ礁保護研究センター「しらほサンゴ村」を設立し、地元の白保の人たちとともに、サンゴ礁の調査や保全活動、持続的な海の資源利用に取り組んでいます。弊社では「OAマルチケント紙 美彩紙」のメーカー売上高の1%を活動支援金として寄付しております。



### 東京湾「海の森」植林活動

2020年東京オリンピックの競技予定地の「海の森」、ここで毎年恒例となった植樹ボランティアに有志社員とその家族とともに参加いたしました。

環境活動・啓発活動

環境活動ニュースの配布

年に一回、環境に対する取り組み活動をまとめた「環境活動ニュース」を発行し、得意先様などに配布しております。

### 環境方針

**■ 環境理念**  
当社は最先端の技術として「環境にやさしい商品づくり」をメインテーマに、環境に配慮した製品の開発・拡販を積極的に推進し、環境配慮企業として国際的な評価を受ける企業活動を展開してまいります。また、自然保護を重視して以下に紹介する環境保全活動に取り組んでまいります。

**■ 活動指針**  
1 環境にやさしい商品づくり  
2 環境に配慮した商品の開発・拡販  
3 環境に配慮した製品の開発・拡販  
4 環境に配慮した製品の開発・拡販  
5 環境に配慮した製品の開発・拡販  
6 環境に配慮した製品の開発・拡販  
7 環境に配慮した製品の開発・拡販

### 主な環境活動

- 環境マネジメントシステム、エコアクション21
- オイスカ「子供の森」計画支援
- WWFジャパン「しらはサングコ村」活動支援
- チャレンジ25

## 環境活動ニュース 2013-2014

株式会社 長門屋商店

**Nagatoya**  
www.nagatoya.com

ペットボトルキャップの回収

社内で消費したペットボトル飲料のキャップを回収し「エコキャップ推進協会」に送付しています。延べで約1万個を提供しました。(キャップの再資源化利益がポリオワクチン購入に当てられます。)

### 自然エネルギーの利用

2013年9月～2014年4月

麻布本社	11,103	21,766
東横センター	12,507	45,163

### みんなのボランティア活動

2012年9月に東横センターが参加したエコキャップ活動に麻布本社も取り組みました。ペットボトルのキャップ800個の回収でポリオワクチンが一人分購入できるそうです。キャップは2～3枚程度ですのでワケチンが購入できるまで長い期間が必要ですが、日々の小さな積み重ねが大切。本日も東横センターもコツコツ取り組んでいます。

2013年11月 東京湾「海の森」緑化活動へ参加

### 環境保全団体への支援

2014年4月 財団法人「しらはサングコ村」支援

2014年4月 (公財)オイスカ「子供の森」計画支援



## その他

---

### グリーン購入につきまして

文具販売業を営んでいるため、汚れによる販売不可商品やサンプル品なども日常積極的に使用しており、文具通販等からの購入がなく事務用品のグリーン購入は数値集計が難しく行なっておりません。

以下の通りに意識的にグリーン購入を実施しております。

■OA機器類や電化製品などの購入の際には、右記の写真のように「エコマーク」や「Energy Star」が付いたものなどを積極購入

■印刷封筒類は古紙配合のものを使用

■コピー用紙はシーンによって、再生PPCを使用

■モノクロレーザープリンタには、再生トナー、再生ドラムを使用



## 環境関連法規

法規・条例	業務における順守事項	評価	
環境基本法 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 環境への負荷の低減の取組</li> <li>■ 自動車公害対策(アイドリングストップ)</li> </ul>	○	遵守
廃棄物処理法 東京都廃棄物条例	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 廃棄物処理業者の管理、分別廃棄の管理</li> </ul>	○	遵守
容器包装リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 紙容器・プラスチック袋の使用状況の把握</li> <li>■ 商品包装への識別マーク表示</li> <li>■ 上記の包装資材の再商品化義務</li> </ul>	○	遵守
家庭用品品質表示法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 障子紙が該当</li> </ul>	○	遵守
下水道法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日常使用の範囲</li> </ul>	○	遵守
労働安全衛生規則	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 電動フォークリフトの法定検査および自主検査</li> </ul>	○	遵守
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ リース車両につき、リース会社に委託</li> </ul>	○	遵守
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 指定産廃業者に廃棄委託・支払</li> </ul>	○	遵守

2014年5月現在

### 環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法規に関する違反はありません。また訴訟についても事例がありません。  
関係当局よりの違反の指摘は過去3年間ありません。

## 2014年度～2016年度の設定 中期環境目標

実施事項	2013年度実績	2014年度目標	3カ年での中期目標
①-A 電力消費量	53,029kwh	<b>50,000kwh</b> 前年対比 <b>-5.7%</b>	2015年度 <b>49,000kwh</b> (対2013年度-7.5%) 2016年度 <b>48,000kwh</b> (対2013年度-9.4%)
①-B ガソリン給油量	8,992リットル	<b>8,700リットル</b> 前年対比 <b>-3.2%</b>	2015年度 <b>8,600リットル</b> (対2013年度-4.3%) 2016年度 <b>8,500リットル</b> (対2013年度-5.4%)
①排出CO2削減	44,885 kg	<b>43,000 kg</b> 前年対比 <b>-4.2%</b>	2015年度 <b>41,500 kg</b> (対2013年度-7.5%) 2016年度 <b>40,000 kg</b> (対2013年度-10.8%)
② 水使用量	205m3	<b>203m3</b> 前年対比 <b>-1.0%</b>	2015年度 <b>200m3</b> (対2013年度-2.4%) 2016年度 <b>198m3</b> (対2013年度-3.4%)
③-A 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ (熱回収/埋立)	950.7kg	<b>900.0kg</b> 前年対比 <b>-5.3%</b>	2015年度 <b>850.0kg</b> (対2013年度-10.5%) 2016年度 <b>800.0kg</b> (対2013年度-15.8%)
③-B 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	3162.3kg	<b>通年取組把握</b>	
④ 環境対応商品売上高	27,081万円	<b>28,000万円</b> 前年対比 <b>+3.4%</b>	2015年度 <b>29,000万円</b> (対2013年度+7%) 2016年度 <b>30,000万円</b> (対2013年度+10.7%)
⑤グリーン購入比率の拡大	消耗品類および新規OA機器導入時には、各カタログにおいて「グリーンマーク」の付いた商品を積極的に使用すること		
⑥従業員の環境意識向上	緑化推進・クールビズ・健康増進		



## 環境管理責任者の総評 および 代表者の総括

### ■環境管理責任者の総評

若い社員を中心に非常に熱心に色々と考え、今回は全体的に好成績につながりました。特に四半期ごとの取組状況をエクセルシートに記入するように課し、逐次それぞれの取組状況を把握しながら意見交換を行なっています。

古紙の分別方法の見直しや、事務所の窓にすだれを設置するなど、今までつい私が億劫にしていた部分なども自分たちで意見を出しながら工夫し、取り組む姿勢が非常に変わったなど実感しております。正直今までは後進への引き継ぎなど考えもしませんでしたが、これだけ前向きなメンバーが増えてくれば、想定しておかねばなりませんので、今回のレポートより文書管理や集計管理を多少簡略化を図りました。

2014年度からは各取組を部課単位に分けました。通常の部課ミーティングでグループエコミーティングを実施してもらい、どんどん新しいアイデアが生まれることを期待しています。



2014年6月12日

中島淳

### ■代表者による総括

昨年度より本社ビルを活動の範囲に加え、現在では全社的に環境経営に取り組むようになりました。今年度は、廃棄物排出量の把握を大きなテーマに掲げ活動を進めてきました。

本社(港区)と東陽センター(江東区)では、委託する産業廃棄物処理業者が異なることもあり、分類や収集・計量のルールを設けるのに苦労しましたが、現在ではある程度共通のルールの下で運用を行なえるようになってきました。廃棄物排出量が数値として具体的にになってきましたので、今後はより一層の細分化にも挑み、廃棄物・資源物両方の排出量削減に取り組んでいきたいと考えています。

今年度環境活動の「環境目標および達成状況」を総括します。

●昨年度増加してしまった電力消費量を前年比6.7%削減することができました。これは2013年10月に小売部店舗と東陽センター事務所・庫内の照明(蛍光灯)合計100本をLED化した効果と考えられます。夏場、東陽センター事務所のすべての窓にすだれを設置するなど、省エネの工夫も凝らしました。しかしながら東日本大震災の起きた2011年度の電力消費量までには及んではおりません。まだまだ出来るはず。全社に節電意識徹底し、更なる電力消費量の削減に努めていきます。

一方で太陽光発電が活躍してくれています。今年度の総発電量は23,610kwh。オフセット効果に大きく貢献しました。

●ガソリンの使用量については微減ではありますが、前年比0.7%削減することが出来ました。エコカーの入替え導入による効果と把握していますが、経営的観点から費用対効果としては決して良いパフォーマンスとは言えない数値と感じています。

●水使用量については前年比1.0%削減することが出来ました。これも微減ではありますが、日々心がけから生み出された成果と捉えています。

●廃棄物排出量については、前年比5.2%削減することが出来ました。

●環境対応商品の売上高については前年比5.8%アップすることが出来ました。今後も新製品の開発など積極的にトライしたいと思えます。

今年度の取り組みは総じて進歩の見える結果となりましたが、目標を達成できていない実施項目もありましたので、エコミーティングなどを通じて話し合い改善・進化させて参ります。



2014年6月13日

代表取締役 横溝純一

紙から始めるコミュニケーション

株式会社 長門屋商店

<http://www.nagatoya.com>

編集者:長門屋商店 業務部 中島淳  
〒135-0016 東京都江東区東陽1-3-3  
TEL 03-5690-7131  
FAX 03-5690-8010  
[nakajima@nagatoya.com](mailto:nakajima@nagatoya.com)